



脂質生化学研究 Circular

2013

日本脂質生化学会
(JCBL)

日本脂質生化学研究 サーキュラー 2013

目 次

第 55 回日本脂質生化学会のお知らせ		1
平成 25 年度日本脂質生化学会 総会・幹事会のお知らせ		5
第 55 回日本脂質生化学会 発表演題の募集		6
第 55 回日本脂質生化学会 宿泊のご案内		8
第 55 回日本脂質生化学会を開催するにあたって	青木 淳賢	11
第 54 回日本脂質生化学会を開催して	伊東 信	12
第 54 回日本脂質生化学会に参加して	石黒 純	14
53 rd ICBL に参加して	林 秀樹	15
53 rd ICBL に参加して	田島 陽子	18
第 54 回国際脂質生物科学会議 (54 th ICBL) のご案内	伊東 信	20
2013 FASEB 国際学術会議開催のご案内	五十嵐靖之	22
原発性脂質異常症データベースが LipidBank に	横山 信治	23
幹事就任にあたって	瀬藤 光利	25
会の活動状況		27
賛助会員		31
会則		32
学会事務の取り扱い内容と連絡先		34

第55回 日本脂質生化学会のお知らせ

期日：2013年（平成25年）6月6日（木）、7日（金）

会場：ホテル松島大観荘

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島字犬田10-76

Tel：022-354-2161 <http://www.taikanso.co.jp>

*会場へのアクセスについては、「会場のご案内」をご覧ください。

実行委員長：青木 淳賢（東北大学大学院薬学研究科）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

Tel：022-795-6860、Fax：022-795-6859

E-mail：JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp

大会ホームページ：<http://lipidbank.jp/wiki/JCBL:55>

発表形式：すべて口頭発表

A講演：発表15分＋討論5分＝20分

B講演：発表10分＋討論5分＝15分

講演時間は演題数によって変更することもあります。

発表はすべて液晶プロジェクターを用います。

シンポジウム

1. 酸化脂質研究の最前線-疾患シグナルとしての酸化脂質と新たな解析法-
2. リゾリン脂質の新たな生理機能と病態

特別講演

田口 良 先生（中部大学）

徳村 彰 先生（徳島大学）

ランチョンセミナー

AB SCIEX（エービー・サイエックス）

事前参加申し込み締め切り：4月26日（金）（5月下旬頃に参加証を送付します。）

名誉会員、賛助会員の皆様には別途ご案内申し上げます。

学会参加登録費（2日分の昼食代を含みます。）

事前参加登録 一般 7,000円 学生 4,000円

当日参加登録 一般 8,000円 学生 5,000円

（非会員の方は、要旨集代金を別途申し受けます。）

懇親会 日時：6月6日（木）19時頃より

会場：大観荘 宴会場にて

懇親会参加費：

大観荘に宿泊される方は、懇親会参加費が夕食代として宿泊費に含まれています。大観荘以外の施設に宿泊し、懇親会に参加される方は、以下の懇親会参加費を頂きます。

一般 8,000円 学生 4,000円

宿泊について

本大会の会場であるホテル大観荘は、松島を一望する高台に立つリゾートホテルですので、最も近い周辺ホテルへは徒歩15分ほどかかります。また、今回は食事、宿泊、懇親会費を含めた特別料金を設定していただいております。是非、ホテル大観荘にご宿泊下さいますよう、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。詳細は、「宿泊のご案内」をご覧ください。

事前参加登録、懇親会参加、宿泊の申し込みは、メールにて承ります。大会ホームページより「事前参加登録・懇親会・宿泊申込書」ファイル(3月上旬掲載予定)をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メール添付にてご送付下さい(JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp、受付期間:3月11日～4月26日)。

振込先：

銀行名： 三菱東京UFJ銀行

支店名： 仙台支店 （店番 3 1 4）

口座番号：普通預金 0 3 4 5 9 8 2

口座名： 第55回日本脂質生化学会 実行委員長 青木淳賢

参加登録費、懇親会費は出来るだけ事前にお振り込み下さい。

会場周辺の地図と交通アクセスについては、「会場のご案内」のページをご覧ください。

第55回 日本脂質生化学会
特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーのお知らせ

特別講演

1. 「リン脂質メディエーター研究の潮流」
徳村彰（徳島大薬） 座長：青木淳賢（東北大薬）
2. 「リピドミクスと質量分析」
田口良（中部大） 座長：有田誠（東大薬）

シンポジウム1

酸化脂質研究の最前線 -疾患シグナルとしての酸化脂質と新たな解析法-

オーガナイザー： 宮澤陽夫（東北大農）、今井浩孝（北里大薬）

予定演者： 宮澤陽夫（東北大農）、中西広樹（秋田大生体情報セ）、斉藤芳郎（同志社大）、今井浩孝（北里大薬）、井上飛鳥（東北大薬）

シンポジウム2

リゾリン脂質の新たな生理機能と病態

オーガナイザー： 徳村彰（徳島大薬）、石井聡（秋田大医）

予定演者： 田中 保（徳島大薬）、柳田圭介（東大医）、宮坂昌之（阪大未来戦略機構）、中出眞嗣（小野薬品工業）、平林義雄（理研）

ランチョンセミナー:6月7日(金)

AB SCIEX（エービー・サイエックス）

講師：有田 誠（東大薬）

なお、日程、演題タイトル等につきましては変更の可能性があります。演者等につきましても、決定次第、大会ホームページに掲載致します。

第55回 日本脂質生化学会 会場のご案内

大会会場：ホテル大観荘

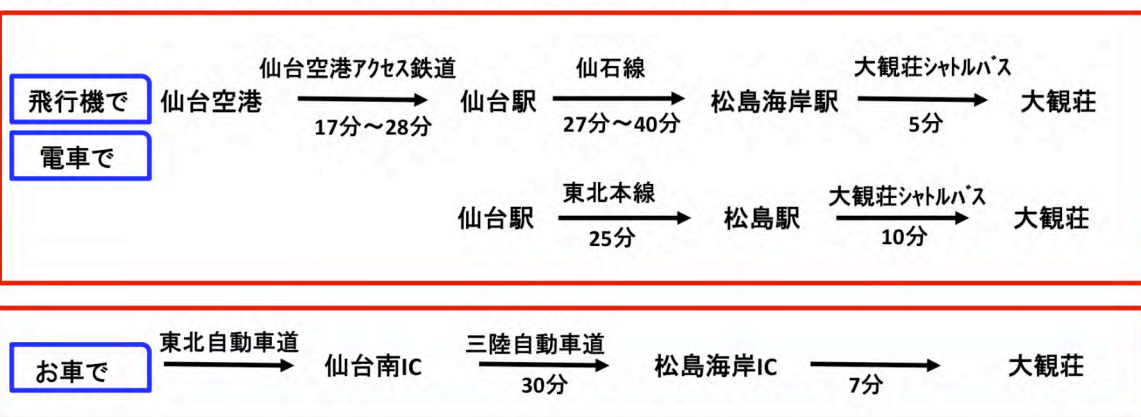
〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島字犬田10-76

Tel : 022-354-2161 <http://www.taikanso.co.jp>



ホテル大観荘までのアクセス

仙台駅からの乗り換えは仙石線(松島海岸駅)、東北本線(松島駅)がありますが、東北本線は大観荘シャトルバスの接続が悪く、駅での待ち時間が長くなるため、仙石線松島海岸駅下車でのシャトルバス利用をお勧めします。
 最寄駅からのタクシー料金 松島海岸駅より¥650 松島駅より¥1,100程度



平成 25 年度 日本脂質生化学会総会のお知らせ

上記の総会を平成 25 年 6 月 6 日（木）夕刻、一般演題終了後（開催時刻・会場は改めてご案内差し上げます）開催いたします。ご出席賜りたく存じます。

会長 和泉 孝志

- 議題
1. 平成 24 年度事業報告
 2. 平成 24 年度決算報告ならびに監査報告
 3. 平成 25 年度事業計画ならびに予算案
 4. その他

平成 25 年度 日本脂質生化学会幹事会のお知らせ

上記の幹事会を平成 25 年 6 月 6 日（木）昼頃に開催いたします（開催時刻・会場は改めてご案内差し上げます）。幹事・名誉会員の皆様のご出席をお願いいたします。

会長 和泉 孝志

- 議題
1. 平成 25 年度日本脂質生化学会総会への提案事項の検討
 2. その他

第 55 回日本脂質生化学会 発表演題の募集

○演題の申し込みについて

本年度も演題登録は「大学医療情報ネットワーク(Umin)の ELBIS システム」を用いて、インターネット上から行います。連絡用に電子メールのアドレスが必要ですので、各自ご用意下さい。また印刷用の講演要旨は、電子メールの添付ファイルで下記事務局(jcbl-org@pharm.showa-u.ac.jp)までお送りください。PDF ファイルと Word ファイルの両方を送付して頂きます。

筆頭演者は本学会の会員に限ります。未入会の方は必ず本年 4 月末までに入会手続きを完了してください。

演題登録の開始は平成 25 年 3 月 5 日(火)、締め切りは平成 25 年 4 月 4 日(木)です。講演要旨の締め切りは平成 25 年 4 月 11 日(木)です。

○ 演題登録の仕方

- 1) 次ページの作成要領に従って講演要旨を作成して下さい。「要旨(600 字以内)」は演題登録の際に必要ですので、ワープロファイルまたはテキストファイルをご用意下さい。
- 2) 日本脂質生化学会のホームページ(<http://lipidbank.jp/wiki/JCBL:55>)にアクセスし、「演題申込」を選択して下さい。
- 3) 与えられた指示に従って演題登録を行って下さい。必須項目を空欄のままにしておきますと、登録ができませんのでご注意下さい。登録内容は締め切りまで変更可能ですが、登録の際に入力したパスワードが必要になりますので、必ずメモを取って下さい。
- 4) 登録終了後、抄録登録[受付番号]というタイトルの電子メールが発表代表者に届きますので必ず保存しておいて下さい。
- 5) インターネットが使用できない方、登録ができない方は、講演要旨をお送り頂く前に、以下の講演要旨送付先までご連絡下さい。

○ 講演要旨送付先 (PDF ファイルと Word ファイルの両方)をお送り下さい)

E-mail アドレス : jcbl-org@pharm.showa-u.ac.jp

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

昭和大学薬学部衛生薬学部門内

日本脂質生化学会 講演要旨受付 (担当 : 中谷良人)

電話:03-3784-8197 FAX:03-3784-8245

○ 学会についてのお問い合わせ

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

Tel : 022-795-6860、Fax : 022-795-6859

E-mail: JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp

東北大学大学院薬学研究科 青木 淳賢

第 55 回日本脂質生化学会 講演要旨作成要領

1. テンプレートを使用する場合、日本脂質生化学会ホームページ(<http://lipidbank.jp/wiki/JCBL:55>)から「講演要旨作成テンプレート」をダウンロードし、マイクロソフト Word で作成して下さい。テンプレート上で入力すれば、字体や大きさが統一されます。
2. テンプレートを使用されない場合は以下の要領で作成して下さい。
 - * A4 サイズ、縦 260 mm×横 170 mm の大きさに作製して下さい。原則として字の大きさは 12 ポイント、フォントは「MS 明朝」をご使用下さい。要旨集印刷の際、4/5 程度に縮小されて印刷されます。ページ番号は付けなくて下さい。
 - * 演題名：全角 8 文字目から書き始め、2 行以内に納めて下さい。
 - * 氏名・所属：演題名より 1 行空けて下さい。全角 8 文字目から氏名を書き、所属は適当な略記を用いて()内に入れて下さい。発表者(または連絡著者)の電子メールアドレスを記載して下さい。
 - * 要旨：氏名・所属より 1 行空け、全角 1 文字空けて書き始めて下さい。全体を枠で囲んで下さい。
 - * 本文：要旨より 2 行空けて下さい。
3. 講演要旨の作成にあたって
 - * 1 ページから 6 ページの範囲で作成して下さい。通常は 4 ページ程度です。
 - * 日本語か英語で作成して下さい。
 - * 講演要旨により、日本脂質生化学会会則第 2 条に定められた本会の目的に沿わないと判断される演題は、発表をお断りすることがあります。
 - * 講演要旨の作成にあたっては、著作権、知的財産権、及び二重投稿と解釈されることへの懸念等についてご留意下さい。
4. 講演要旨の送付にあたって
 - * 講演要旨の PDF ファイルおよび Word ファイルを、前ページの「講演要旨送付先」まで電子メールの添付書類としてお送り下さい。
 - * 電子メールの「件名」の欄に、演題登録後に届いた「抄録登録[受付番号]」を明記してください。

講演要旨締め切りは平成 25 年 4 月 11 日(木)です。

なお、WEB からの演題登録（締め切り 4 月 4 日（木））を忘れずに行ってください。

第 55 回日本脂質生化学会 宿泊のご案内

学会会場・懇親会会場である「大観荘」にご宿泊希望の方は、学会専用の特別料金が適用されますので、「事前参加登録・懇親会・宿泊申込書」を使用して、メール添付にてお申込下さい（JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp）。大観荘以外に宿泊の場合は、ご自分で手配をお願いします。（その際は別途懇親会費を頂きます。）

1. 申込受付期間（なるべく早くお申込ください。満員になり次第〆切とします。）

平成 25 年 3 月 11 日（月）～ 4 月 26 日（金）

2. 料金適用期間

平成 25 年 6 月 6 日（木）～ 6 月 7 日（金）

3. 宿泊施設

ホテル松島大観荘

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島字犬田 10-76

Tel : 022-354-2161

4. お申込方法

「事前参加登録・懇親会・宿泊申込書」ファイルを大会ホームページよりダウンロードし（3月上旬掲載予定）、必要事項をご記入の上、メール添付にてご送付下さい（JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp）。

一部屋のご利用につき「事前参加登録・懇親会・宿泊申込書」一枚をお使い下さい。1 週間以内に予約確認のメールを送信いたします。予約内容を必ずご確認ください。（ただし、同室者を決めずに申し込まれる場合は時間を頂くことがあります。）また、訂正・変更が生じた場合は、電子メールにて速やかにご連絡下さい。満室になり次第締め切らせていただきますので、ご希望に添えないことがありますことをあらかじめご了承下さい。

5. お支払い方法

電子メールでお送りする予約確認書で金額をご確認の上、下記にお振込下さい。

銀行名： 三菱東京 UFJ 銀行

支店名： 仙台支店 （店番 3 1 4）

口座番号： 普通預金 0 3 4 5 9 8 2

口座名： 第 55 回日本脂質生化学会 実行委員長 青木淳賢

予約確認書を受取り後、10日以内に代金をお振込下さい。期日までに入金が確認できない場合にはご依頼のお部屋をとれない場合がございます。

6. 宿泊料金

下記の料金は一人一泊（サービス料・消費税）および懇親会費（一日目の夕食・飲み物代）を含みます。

お部屋のタイプ	利用人数	料金（一人当たり）	料金（一部屋当たり）
シングルルーム	1名 / 室	\15,000	\15,000
ダブルルーム	1名 / 室	\20,000	\20,000
ツインルーム	2名 / 室	\17,500	\35,000
和洋室	3名 / 室	\17,500	\52,500
和洋室	4名 / 室	\15,000	\60,000
和洋室	5名 / 室	\13,000	\65,000

シングルルームはビジネスホテル様のお部屋で、窓がありません。それ以外のお部屋からは景色をお楽しみいただけます。また、ツイン、ダブルルームには数に限りがございますので、是非和洋室をお選び下さい。

＜相部屋のお申込について＞

① 同室者を決めて申し込まれる場合

代表者1名が、部屋毎の申込書に同室者名を記入してお申込下さい。

（なるべく、この形でお申込下さい。）

② 同室者を決めずに申し込まれる場合

お一人で同室者を決めずに相部屋の申込をされる場合は、宿泊申込書に何人部屋を希望されるのかご記入下さい。また、相部屋となる方の希望がある場合は備考欄にご記入下さい。必ずしもご希望に添えないことがあります。ご了承ください。

7. 変更・取り消しについて

訂正、変更、取り消しが生じた場合は電子メールにて5月31日（金）までにご連絡下さい。ただし、事務手数料が発生する可能性があります。

8. お申込・お問い合わせ先

〒980-8578

仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院薬学研究科

担当者：巻出、井上（亜弓）、上西

Tel : 022-795-6861

Fax : 022-795-6859

E-mail: JCBL2013@mail.pharm.tohoku.ac.jp

第 55 回日本脂質生化学会を開催するにあたって

実行委員長 青木 淳賢

東北大学大学院薬学研究科青木と申します。この度、私達の研究室は、来る平成 25 年 6 月 6 日（木）、7 日（金）の両日、松島大観荘（宮城県宮城郡松島町）において「第 55 回脂質生化学会」を、お世話させていただくことになりました。若輩者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

本学会の特徴は、日本の脂質研究をリードする研究者が年に一度一堂に集う学会です。日本の脂質研究は世界的に見ても高い水準を保ち続けており、多くの研究成果が本学会を通じて発信されています。また、日本のお家芸である糖脂質研究だけでなく、リン脂質代謝酵素の研究、最近では創薬ターゲットとして注目されている脂質メディエーター研究の研究者も多く集結しております。

本大会では、通常的口頭発表に加え、シンポジウム、ランチョンセミナーを行います。シンポジウムでは東北大学農学部の宮澤陽夫先生と北里大学薬学部の今井浩孝先生に酸化脂質を中心とするシンポジウムを、徳島大学薬学部の徳村彰先生と秋田大学医学部の石井聡先生にはリゾリン脂質メディエーターを中心に据えたシンポジウムをまとめて頂きます。ランチョンセミナーでは AB SCIEX の支援を頂き、東京大学薬学部の有田誠先生に最新の質量分析機器を用いた脂質解析法の最前線のお話を頂きます。また、特別講演として徳島大学薬学部の徳村彰先生と中部大学の田口良先生にお話を伺います。両先生には最近のトピックだけにとらわれず、温故知新の精神で自由に語って頂く予定です。

今回、会場である松島大観荘のある宮城県、特に、沿岸地方は一昨年の 3 月 11 日の震災で大きなダメージを受けました。しかし、幸いなことに松島は多くの小島により、津波の被害を最小に食い止めることができました。会場の大観荘は海岸から標高 50m ほどの高台に位置し、松島を一望できる大変景色の良い会場です。また、今回はほとんどの参加者に松島大観荘にお泊まり頂き、一晩脂質研究談話に花を咲かせて頂ければと考えております。

多くの方々の参加をお待ちしております。

第 54 回日本脂質生化学会を開催して

九州大学大学院農学研究院生命機能科学部門 伊東 信

平成 24 年 6 月 7、8 日に九州大学医学部百年講堂において第 54 回日本脂質生化学会を開催致しました。今回は、9 名の名誉会員の先生を含め、303 名の方々に参加いただきました。ご参加下さいました会員の皆様にお礼申し上げます。今大会は、文科省新学術領域研究「脂質マシナリー」主宰の国際シンポジウム「Machineries of bioactive lipids in homeostasis and disease」とのジョイントで開催しましたが、相互協力による学会運営の効率化ばかりでなく、より密度の高いコンテンツを学会員に提供できるという意味においても、相乗効果があったように思います。

特別講演は、九州大学大学院理学研究院の藤木幸夫先生と理化学研究所脳科学総合研究センターの平林義雄先生にお願いしました。藤木先生は、「細胞内小器官ペルオキシソームと脂質代謝及びその障害」というタイトルで、ペルオキシソームにおける極長鎖脂肪酸の β -酸化、プラズマローゲンの生合成・輸送、ペルオキシソーム形成障害遺伝子に関して、長年の膨大なデータを取りまとめてご紹介下さいました。平林先生は「新時代の糖脂質研究」というタイトルで、先生が見いだされた新しい糖脂質、ホスファチジルグルコシドの神経系での分布、生合成、機能についてお話し頂きました。両先生のこれからの益々の研究のご発展をお祈り致します。

今大会では、2つのシンポジウムを行いました。シンポジウム I は、上記国際学会とジョイントで、「Lipid mediators in vascular biology and immunity」というタイトルで、京都大の梶島先生、北里大学の馬嶋先生、Queen's 大学の Funk 先生、Karolinska Institutet の Betsholtz 先生、金沢大学の多久和先生に、脂質メディエーターに関するオリジナリティーに富む研究内容をご紹介いただきました。シンポジウム II は、「脂質生化学研究の Cutting Edge」という表題のもとに、北海道大学の木原先生、大阪大学の藤田先生、京都大学の竹松先生、金沢医科大学の岡崎先生、理研の小林先生、東京大学の田口先生、神戸大学の伊藤先生、そして九州大学の平田先生に脂質生化学研究の最先端の話題と醍醐味を話していただきました。このシンポジウムを契機に本会に入会して下さいました若いシンポジストもおられ、本会の発展にこれからも力を発揮していただければと祈念します。

大会の最重要事項の 1 つである学会員による一般講演は、2 日間、3 会場で総計 84 題行われました。また、(株) 島津製作所とモレキュラーデバイスジャパン (株) による 2 件のランチョンセミナーが行われました。

7 日の懇親会は、マリエラ号による博多湾クルーズを行いました。好天に恵まれ、2 時間余のディナーとクルーズを旧知の方々と楽しんでいただけたものと思います。鈴木邦彦先生の流暢な英語も交えた乾杯の音頭で始まり、九大フィルメンバーによる弦楽四重奏のミニコンサート、九大発酵学講座の竹川教授が自らセレクトしてくれた

イタリアワイン、船上から見る博多湾の夜景は如何だったでしょうか。

最後になりましたが、特別講演、シンポジウム及び一般講演の講演者、座長を務めて下さいました先生方にお礼申し上げます。また、本大会の運営に協力してくれた九州大学の世話人の皆様、大学院生諸君に感謝致します。この大会直前に、順天堂大学に移られた横溝岳彦先生には大会世話人としてのみならず、国際シンポジウムのジョイント開催においても大変なご尽力を頂きましたことを記し、感謝の意を表したいと思います。また、今回の大会を開催するに際して、多くの企業、団体のご協力を得ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。



本大会は、国際シンポジウム「Machineries of bioactive lipids in homeostasis and disease」とのジョイントで開催された。



九州大学藤木幸夫教授による特別講演



出航を待つマリエラ号



懇親会はマリエラ号による博多湾クルーズ

第 54 回日本脂質生化学会に参加して

東北大学大学院薬学研究科 分子細胞生化学分野
博士課程 1 年 石黒 純

2012 年 6 月、福岡で行われた第 54 回日本脂質生化学会において、私は発表の機会を頂きました。私自身初めての九州ということもあり、福岡の雰囲気を味わうことも楽しみの一つとして福岡へ向かいました。そんな私にとって博多湾クルーズ船での懇親会はとても楽しい時間でした。博多の街を一望できたことに加え、著名な先生方から最先端の脂質研究や研究姿勢に関するお話を頂けたこと、また、同年代の研究者たちと知り合い、互いに刺激し合えたこと、どれも貴重な体験になりました。

さて、本学会で私は酸化リン脂質に応答する新規 G タンパク質共役型受容体 (GPCR) の同定という題で発表させて頂きました。私たちの研究室では酸化リン脂質を扱う機会が減多になく、半ば独学で得た浅い知識しか持ち合わせていない私が、その分野を専門とされる先生方の前で発表させて頂くことには気が引けました。しかし、先生方から頂くご意見やご指摘はきっと今後の研究にとって大きな財産になると気持ちを切り替え、意気込んで発表に臨みました。発表は二日目の最後だったにも関わらず、多くの先生方からご意見を頂き、討論できたことは非常に嬉しく感じました。この場を借りて深く感謝いたします。

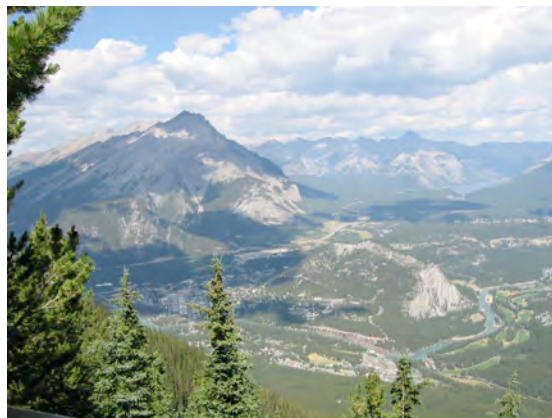
また、本学会は脂質マシナリー主宰の国際シンポジウムとのジョイント開催ということで、日本のみならず、世界の最先端で研究されている先生方の講演を聴くことができたことも貴重な体験となりました。中でも印象的だった講演は、京都大学の成宮周先生の講演でした。私自身が脂質メディエーターに対する GPCR の研究を行っていることもありますが、複雑なプロスタノイドによるシグナルを、各種受容体ノックアウトマウスを用いて非常に詳細かつ華麗に解析されていて、おそらくその裏に隠されているであろう莫大な努力を想像しただけで気が遠くなりそうだったことを覚えています。他にも感銘を受けた講演は枚挙に暇がありませんが、このような先生方の迫力や情熱を直に感じる事ができ、自分自身を奮い立たせる意味でも本学会に参加できたことはとても幸運だったと感じています。

第 55 回の本学会は宮城県松島での開催ですので、私たちの研究室員は運営の仕事をさせて頂くことになると思いますが、学会が滞りなく進行するよう力を尽くしたいと思います。同時に、諸先生方の研究の進展に関する講演を聴けることを心から楽しみにしています。

53rd International Conference on the Bioscience of Lipids (ICBL)に参加して

熊本大学 大学院先導機構 林 秀樹

“Frontiers in Lipid Biology”と題された第53回国際脂質生物科学会（ICBL）は、2012年9月4日から9日に、カナダ西部のロッキー山脈内にあるバンフで開催されました。バンフ国立公園は、カルガリーから車で約1時間半のところにあるカナダで最も古い国立公園であり、世界遺産にも登録されている有名な観光地です。延々と連なる険しい岩山やエメラルドグリーン



の湖が点在しており、それらの美しいコントラストには圧倒されます。今回の旅では、エルクやビッグホーンシープなどの動物を見ることができましたが、この大自然の中にと、リスやシカのような日本で見られる動物たちでさえ、特別に感じられます。バンフは、メイン通りであるバンフアベニューを中心として、両側にたくさんのギフトショップやレストラン、ホテルが並んでおり、ハイシーズンには非常に多くの観光客で賑わいますが、学会期間がちょうど北米の年度始めであったため観光客もほどほどで、きれいな街並をゆっくり楽しむことができました。しかしその分、夏の熊本との温度差が激しく、バンフの5℃以下になる朝晩の気温は、かなりこたえました。

アメリカ生化学分子生物学会のスペシャルシンポジウムシリーズとして、カナダ・リポプロテイン学会とともに合同大会の形で開催された本学会には、北米を中心とし

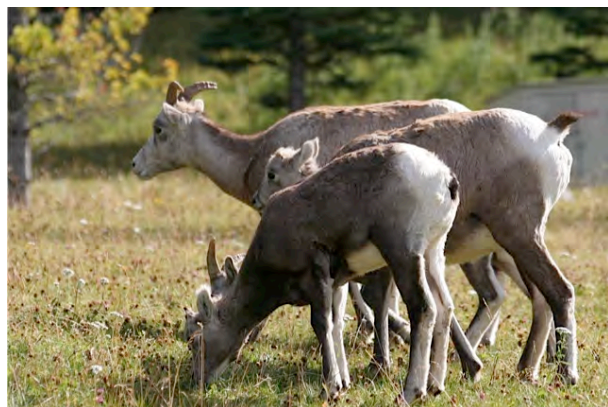


て、ヨーロッパ、アジア、南米、オセアニア、アフリカの世界21カ国から289名が参加しました。本学会のオーガナイザーである Dennis Vance 先生（カナダ、アルバータ大学）にお問い合わせしたところ、日本からは37名が出席しており、カナダ120名、アメリカ62名に次いで3番目の大所帯だったそうです。また男性168名、女性121名で、大学院生87名、ポスドク40名、教職員105名、その他57名ということでした。数字が示すように、本学会での女性の活躍が目立ちます。

私事ですが今回の ICBL では、たくさんの友人やお世話になった先生に再会することができました。というのも私は、バンフから車で4時間程度のエドモントンという都市にあるアルバータ大学に2008年まで、約7年間留学していたからです。留学中は、Dennis Vance 先生（写真中段左端）の奥様であり、同じく医学部の教授である Jean Vance 先生（写真最前列1番右）の研究室にいました。本学会のオーガナイズンングコミッティーメンバーである Rene Jacobs 先生（写真最前列右から2番目）とは、彼が Dennis Vance 先生の研究室でポスドクをしているときからの友人で、ゴルフの先生（？）です。写真は学会参加者のうち、2人の Vance 先生にお世話になったメンバーのもので、みんな良き先輩や後輩であり、友人です。1人その場にいなかったため、あとから合成したそうですので探してみてください。Dennis Vance 先生からのメールには「Thanks to Photoshop」と書かれていました。私は留学中に多くの一流の研究者に出会い、刺激を受け、仕事の的にも個人的にもたくさんの貴重な経験をしました。また ICBL のような学会で多くの友人と再会できるのも、そのおかげです。若い研究者にあまり無責任に留学を勧めるわけにはいきませんが、私の人生において、大きな財産になっていることだけは確かです。



本学会は、“Dynamics of Triacylglycerol Metabolism”、“Phospholipid Function”、“Lipid Signaling & Regulation”、“Cholesterol Metabolism”、“Lipids and Disease-1”、“Fatty Acid Metabolism”、“Lipids and Disease-2”という7つのセッションに加え、カナダ・リポプロテイン学会の Short Talk セッションを合わせた合計8つのセッションで構成されており、plenary lecture 18 演題と short lecture 7 演題、selected oral presentation 32 演題と poster



presentation 145 演題がありました。日本からは、京都大学の植田和光先生が ABC トランスポーター、特に ABCA1 の調節機構や働きに関する plenary lecture をされ、理化学研究所の平林義雄先生の研究室に所属されている石橋洋平先生と私が oral presentation をする機会を得ました。発表自体は9月5日に Rudolf Zechner 先生の triacylglycerol 加水分解における ATGL (Adipocyte Triglyceride Lipase) の役割とその欠損によるミトコンドリア機能不全に関する発表で始まりました。また Stephen Young 先生は、発表の日が誕生日だったとのことで、カイロマイクロン代謝における GPIHBP1 (Glycosylphosphatidylinositol-anchored high-density lipoprotein-binding protein 1) の重要性を示す発表をされた後に、参加者全員による“Happy Birthday to You”の歌と大きなケーキが振る舞われました。その後も最新の興味深い発表が続き、各演題に対する討論も非常に活発に行われました。私は、中枢神経系におけるリポプロテインの役割の研究をしていることもあり、Benjamin Cravatt 先生のエンドカンナビノイド 2-AG (2-Arachidonoylglycerol) 代謝に関わる MAGL (Monoacylglycerol Lipase) のお話や、Cheryl Wellington 先生の中枢神経障害に対する LXR (Liver X receptor) アゴニストの保護効果に関する発表などを興味深く拝聴しました。石橋洋平先生は、今回が初めての国際学会での口頭発表ということでしたが、glucosylceramide 合成に関わる AMP-activated protein kinase の役割を示す見事な研究成果を発表されていました。自分の発表に関しては、緊張してあまり憶えていませんが、発表後には Jean Vance 先生や友人が「良い発表だったよ」と言ってくれたので、少し安心しました。しかし先生は褒めて育てるタイプなので、あまり貶されたことはありません。

最終日のバンケットはウェスタンスタイルバーベキューで、カウボーイハットにウェスタンブーツを履いた装いのバンドの生演奏やムチのデモンストレーション、目の前で大きな肉の塊から切り出されたローストビーフとベイクドポテトを楽しみながら、最後の夜を過ごしました。

私は今回、初めて ICBL に参加させていただいたのですが、発表の質が非常に



高く、内容の濃い国際会議であり、大満足の旅でした。現在、私は一人で独立して研究を行っているため、なかなか多くの成果を期待することはできませんが、また本学会に参加して発表ができるように頑張ろうと気合いが入りました。日本脂質生化学会にも入会したばかりですが、今後ともご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

本学会の情報を提供していただいた上に、写真の掲載を許諾してくださいましたアルバータ大学の Dennis Vance 先生に感謝いたします。

International Conference on the Bioscience of Lipids (Banff Alberta, Canada) に参加して

国立医薬品食品衛生研究所 疾患メタボロームプロジェクト 田島 陽子

2012 年 9 月初旬、まだ蒸し暑さの残る時期にぴんときないまま冬服やコートを鞆へ詰め込み、初めての国際脂質生化学会へ参加のためカナダのアルバータ州にある町、カナディアン・ロッキー山脈観光の中心地として知られるバンフへ向かいました。およそ 10 時間半の飛行時間をかけ、バンクーバー経由でカルガリー空港まで移動しました。税関で旅の目的を「on business」と答えたまでは良かったのですが、その後仕事の内容や向かう場所など質問されるとは予想出来ておらず、いきなり英語の壁にぶつかり先が思いやられました。カルガリーからバンフの町まで車で向かう途中、一面の草原の中に突然堂々とロッキー山脈が現われ、あまりのスケールの大きさと絵画をそのまま空に貼り付けたような非現実的な光景に、16 時間の時差のため頭が呆然としたこともあり夢かと疑いました。町の中でも、さらに学会会場となったバンフセンター敷地内でも、どこに行ってもその山々は光景の中に圧倒的な存在感を示していました。

学会が行われた建物にはポスター会場の他に 300 人程収容できる会場があり、各国から集まった参加者は一つの部屋に集まり、和やかでアットホームな雰囲気の中シンポジウムが始まりました。いざ始まると、時間を常に押しながら活発な議論が行われ、耳に慣れない英語での議論のためかスピード感、迫力があり圧倒されてしまいました。今回日本からの参加は 36 名と多く、先生方が発表者とディスカッションされる姿を見て理解が追い付かないながらも、最先端の研究を論文誌上で知るだけでなく直接相手と意見を交換することの有意義さを感じ刺激を受けました。ポスター会場もまた、休憩時間のたび人がいっぱいになり熱い議論が行われていました。私は本学会で、「質量分析系を用いたアルツハイマー病モデルマウスの脳と血漿のリピドミクス解析」というテーマでポスター発表させて頂きました。ポスターの内容をきちんと説明できるよう原稿を作り練習していきましたが、いざ相手と対面し「この発表の新しい発見は何?」「今後どうしていくの?」と英語で聞かれると頭が真っ白になってしまい、単語の羅列のような言葉を身振り手振りで伝えるのに必死でした。皆さんとても粘り強く私のつたない言葉を理解しようとして下さり、質問に答えられず悩んでいると「Let's try!」と励まして下さる方や、また別のアルツハイマーモデルマウスの Lipid の変動の知見を私が理解できるよう分かりやすくアドバイス下さる方もいらっしゃいました。実際に海外の方々と直接コミュニケーションを取ることは、positive なエネルギーをもらったようなモチベーションが上がる経験でありました。また機会があったら熱い Discussion が出来るよう成長して臨みたいです。シンポジウムのセッションでは、Cheryl Wellington 先生 (Canada) が HDL の脳や心臓への重要性についてお話され、脳についてはアルツハイマーと ABCA1、ApoE の関連の知見も合わせて興味深

く勉強させて頂きました。また、現行の仕事で NASH や肥満症などの疾病も解析対象となっているため、Helen Hobbs 先生 (USA) が両疾病と PNPLA3 との関連を図で分かりやすく示して下さい有難く勉強させて頂きました。

参加者のほとんどは学会会場となったバンフセンター敷地内の施設に宿泊していたため、朝食から夕食まで参加者同士がコミュニケーションを取りやすい環境ができていました。私もそこでカナダの大学に留学されている日本人の方と知り合うきっかけができ、その方の現地のご友人を紹介して頂き昼食のピクニックにご一緒する事ができました。初めは緊張のため笑顔のまま固まってしまいましたが、皆さんとても優しく話しかけてくださり、最終日、大きなテントを貸し切ったの懇親会（バーベキューパーティー）ではウェスタンミュージックの生演奏をバックにダンスパーティーも行われ、更に輪が広がり楽しい時間を過ごすことが出来ました。お互いの母国の習慣や言葉や時差など（カナダと日本の時間はほぼ半日ずれていたもので、日本人にとっては特に過酷なスケジュールでした。）国際間の会話ならではの話題で盛り上がりました。今回の学会は同世代の研究者も多く、ポスター賞でも同世代の受賞者が目立っており良い刺激をもらいました。また、日本ではあまりお話する機会がない脂質生化学会の著名な先生方と近くでお話することが出来たのも貴重でした。国立衛研で所長をされていた頃からお世話になっている西島正弘先生（昭和薬科大）を始め、本学会でお世話になりました石館光三先生（東京生化学研）、板部洋之先生（昭和大）、また常日頃より、数々のご教授を頂いている最上（西巻）知子先生（国立衛研）、今回、この機会を与えていただいた斎藤嘉朗先生（国立衛研）に心より御礼申し上げます。

第 54 回国際脂質生物科学会のご案内 (54th International Conference on the Bioscience of Lipids, 54th ICBL)

ICBL という名前で親しまれている上記国際学会が 2013 年 9 月 17-21 日にかけて、イタリアの Bari で開催されます。今回の学会の主要テーマは、「Linking transcription to physiology in lipidomics」です。以下のようなトピックスが予定されています。

- Signal transduction, gene expression and circadian rhythm in the regulation of lipid metabolism
- Nuclear receptors and the transcriptional regulation of lipid metabolism
- The gut-liver axis route for lipids
- Dissecting lipid metabolism in diabetes and atherosclerosis
- Lipid metabolism, transcription, neurogenesis, stemness
- Phospholipid metabolism in physiology and disease
- Lipids and membranes in stress management: perception, signaling and adaptation

Bari (バーリ)は、イタリア南部ブッリャ州の州都でアドリア海に面した美しい港町だそうです (www.comune.bari.it)。口頭発表とポスターセッションは、BariのSheraton Nicolaus Hotel & Conference Center (<http://www.starwoodhotels.com/sheraton/property/overview/index.html?propertyID=28>) で行われる予定です。

演題、登録の方法や締め切り等の詳細は、ICBLのHP (<http://www.icbl.unibe.ch>) に近日中に発表される予定です。

学会事務局への連絡は、Dr. Crestaniにメールでお願いします。

Maurizio Crestani, Ph.D.

Associate Professor, Biochemistry

Laboratorio "Giovanni Galli" di Biochimica e Biologia Molecolare del Metabolismo - Spettrometria di Massa

Dipartimento di Scienze Farmacologiche e Biomolecolari - DiSFeB

Università degli Studi di Milano

via Balzaretti, 9

20133 Milano

Italia

ph: +39 02 50318393/1

fax: +39 02 50318391

e-mail: Maurizio.Crestani@unimi.it



2013年9月17-21日 ICBLが開催されるBari, Italy
(<http://www.icbl.unibe.ch/index.php?id=81>)

ICBL Steering Committee
Corresponding Member
Makoto Ito
九州大学 伊東 信

2013 FASEB 国際学術会議開催のご案内

北海道大学大学院先端生命科学研究院 五十嵐 靖之

2013 年 8 月 4 日-9 日に北海道ニセコにおいてリゾリン脂質とその他脂質メディエーター：基礎から応用まで (Lysophospholipid and Other Related Mediators - From Bench to Clinic) に関する国際学術会議 (FASEB SRC) を開催致します。私が Organizer を務め、横溝岳彦先生 (順天堂大学教授), 青木淳賢先生 (東北大学教授), 木原章雄先生 (北海道大学教授) には Co-organizer をお願いしています。

FASEB (Federation of American Societies for Experimental Biology) ではリゾリン脂質とその他脂質メディエーターをテーマとした国際学術会議 (SRC; Science Research Conference) を 2001 年から 2 年おきに開催しており、今回で 7 回目を迎えることとなりました。FASEB SRC が日本で開催されることは全体のテーマを通して極めて稀で、今回が 2 度目です。このことは、この領域における日本人研究者の寄与が極めて大きいことを表わしています。この学術会議では、リゾリン脂質であるスフィンゴシン 1-リン酸、リゾホスファチジン酸と、その他脂質メディエーターとしてプロスタグランジン等について国内外から第一線で活躍する研究者を約 30 名招待講演者 (現時点で海外 17 名, 国内 17 名を予定) として迎え、参加者 100-200 名によって 6 日間にわたって発表と討論を行うものです。Keynote speaker としては、Jason Cyster 博士と Gabor Tigyi 博士をお招きしています。本学術会議ではタイトルの通り、脂質メディエーターについて基礎から臨床応用まで様々な専門を持つ研究者が一堂に会して有意義な議論を交わすことで、この分野をさらに発展させることを目的としています。特にスフィンゴシン 1-リン酸の作用を利用した Fingolimod (FTY720) が最近多発性硬化症治療薬として臨床応用されており、今回の会議でもその応用について取り上げられています。

8 月の北海道ニセコは気候が大変よく、本州の暑さから抜け出して雄大な景色のもと温泉に浸かりながら、研究者同士の交流を深める良い機会でもあります。脂質生化学会の会員の皆様にも是非多数参加して頂き、活発な国際学術会議にしたいと思っております。詳細に関しては FASEB ホームページ (<http://src.faseb.org/>) をご参照いただくか、私あるいは Co-organizer の先生にお問い合わせください。

原発性脂質異常症データベースが LipidBank に

我が国に於ける原発性脂質異常症の遺伝子変異についてのデータベースが LipidBank 上で公開運用されることと成りました。これは日本動脈硬化学会との joint project として運用されるものです。

脂質異常症とは、臨床的に血漿リポタンパク質の分布が異常なパターンを示す症候群を指し、I-V 型に分類される高リポタンパク質血症や低 HDL 血症など動脈硬化症のリスクとなる病態を念頭においた概念です。しかし、これ以外にも、異常なリポタンパク質が出現する様々な病態を包括すると考えて良いと思います。こうした病態の多くは、摂食習慣や運動量などいわゆる生活習慣がその背景・誘因となるものですが、中にはリポタンパク質代謝に関わる特定の遺伝子の異常が同定されている疾患群が含まれています。よく知られている例としては、LDL 受容体の機能異常とされる家族性高コレステロール血症 (Familial Hypercholesterolemia; FH) があり、高 LDL 血症とそれによる動脈硬化性疾患の高いリスクをもつ病態です。これは常染色体優性の疾患で、ヘテロ接合体は一般人口の 1/500 という高い遺伝子頻度を示し、我が国のような冠状動脈疾患の発症率が低い地域では、この疾患への FH の公衆衛生学的寄与は非常に高いと考えられます。FH の遺伝子異常は多彩であり、LDL 受容体だけでも 200 以上の変異が確認されており、最近はその機能制御蛋白質 PCSK9 の変異もよく知られるようになっていますが、FH の半数は変異が未知です。予後や治療手段への反応性はこれらの変異に依るところが大きく、遺伝子変異の情報の臨床的意味は大きいのです。FH 以外にも、アポリポ蛋白質遺伝子の変異や LCAT・LDL などの酵素、ABCA1 のような膜蛋白質など、数多くの遺伝子に起こる変異が多様なリポ蛋白質代謝異常を引き起こします。我が国に於いてもこうした遺伝子変異は広範囲に同定されており、多くが論文などのかたちで公表されています。その中には、CETP 欠損症のように日本や東アジアに特徴的に高頻度に存在するものも存在し、変異の頻度の特徴は臨床的に公衆衛生学的に重要な情報であるはずで、厚生労働省の原発性高脂血症研究班においてこうした情報の集約が試みられたこともありますが、系統的で active な作業にはなってきませんでした。

日本動脈硬化学会では、数年前より、学術委員会に設けられ横山が責任者となっていた脂質代謝部会を中心にして、我が国における原発性高脂血症の遺伝子変異と臨床症状などをデータベース化して公開し、医療や医学研究に役立てるものとする企画に取り組んで参りました。これは、我が国の脂質異常症における遺伝子変異の情報を公共のものとして動脈硬化の予防と国民の健康維持増進にとって重要な課題であるとの認識に基づくものです。その結果、最も現実的な方法として、国際的な評価も高い公開型のデータベースであり、安定した運用が期待できる LipidBank 上にこの情報のデータベースを構築することが、最善の選択肢として考えられるようになりました。こうした背景のもとに、脂質代謝部会では、2010 年から予備的な作

業として、脂質データベース構築委員会の有田正規先生を非公式にお招きして、LipidBank の基本コンセプトとパラダイムのご説明いただき、掲載すべきデータの種類の検討などを行って参りました。その結果、大体の枠組みが定まり、2012 年 6 月福岡で開催された第 54 回脂質生化学会において、脂質データベース構築委員会と総会において、日本動脈硬化学会からの「LipidBank 上での脂質異常症データベース構築に関するお願い」をご承認いただき、今後の運用が正式に始まることがきまりました。これを受けて、2012 年に同じく福岡で行われた第 44 回日本動脈硬化学会において、脂質代謝部会主催のシンポジウム「脂質異常症と遺伝子変異」において、有田先生からこの LipidBank 上でのデータベースについてご発表ご説明をいただき、多くの参加者の強い興味を引きました。

今後の運用は、日本動脈硬化学会では、脂質代謝部会がその運用に責任を負うこととし、日本脂質生化学会脂質データベース構築委員会と協力して運用させていただくことになります。また、動脈硬化学会ホームページからのリンクが設定されます。掲載するデータは、論文や学会発表で公表されたものとし、遺伝子の変異とそれに付随して起こる蛋白質の異常などの基礎データ、頻度、臨床症状などになり、研究者や臨床家にも広く使いやすいたちに改良して行くこととなると思います。会員の皆様のご理解を頂くとともに、大いに利用していただけるよう、また使い勝手についてもご意見をお寄せいただけるよう、お願いいたします。

最後に、私事になりますが、私は 2011 年 3 月で名古屋市立大学を定年退職し、現在は愛知県春日井市にあります中部大学に勤務しております。幸い、JST の研究費で学外に持っておりました約 100 m² の研究室をそのまま中部大学に移転させることが出来、科学研究費や文部科学省の私立大学戦略的研究拠点形成事業などにより研究を続けることになりました。名古屋市立大学の理事を兼務しておりますので、定年前より多忙になってしまい、いささか困惑いたしております。しかし、動脈硬化学会と脂質生化学会は、どちらも「名誉会員」としていただき、運営の第一線を引くことになりました。今後のデータベース運用は動脈硬化学会脂質代謝部会部会長の荒井秀典京都大学教授が責任を持ってあたることとなりますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

横山信治
中部大学
次世代食育研究センター長
応用生物学部食品栄養科学科教授
〒487-8501 春日井市松本町 1200
電話 & FAX: 0568-51-9698
E-mail: syokoyam@med.nagoya-cu.ac.jp

幹事就任にあたって

浜松医科大学 瀬藤 光利

このたびは日本脂質生化学会の幹事にご推薦いただきありがとうございます。脂質生化学会の大先達の脊山先生や清水先生、横溝先生は医学部山岳部時代に一緒に登山した先輩でして、脂質の研究というものがあるということは授業でというよりはテントの中で聞き知っておりました。1994年に学部卒業後、耳鼻科と第三内科を二年間初期研修でローテートしてから大学院は解剖学の廣川研に行きました。二年ほどしてそろそろ臨床に戻ろうかと相談したところ助手にならないかということで少し迷ったのですが諸先輩方の勧めもあって1998年に大学院を中退し助手として細胞内輸送の研究を行いました。

望外なことに学位論文では米国サイエンス誌の若手科学者賞までいただくことができ、留学しようかといくつかの米国の有名ラボからのオファーをもらい準備していた2002年に、脂質生化学の大先達の永井先生にさきがけ研究者に選んでいただき三菱化学生命科学研究所のチャンスを提示していただきました。留学を予定していたところのボスも研究室を主宰できるなら是非その方がいいよということでPIにチャレンジすることにしました。

私の研究の興味としては老化の研究をオリジナルにやりたいとずっと考えています。まずは目新しい方法や物質をと質量顕微鏡や翻訳後修飾の研究から手をつけはじめました。東工大や生理研の助教授にも選んでいただき5年ほど東京と岡崎を毎週往復し、月一くらいで京都の島津にも行きました。本当に何か見えるのかなとやっている本人も心配だった質量顕微鏡法でしたが、だんだんとシグナルがとれ、その多くがタンパク質のみならず脂質や代謝物であることが判明してゆきました。そして脂肪酸の鎖長の違う脂質がそれぞれ分子種ごとに特徴的な組織細胞分布をしていることがわかってきました。AAASの総会やゴードンやキーストンなどに呼ばれてお話しする機会が次第に増え、2007年には第49回の北海道の脂質生化学会で特別講演させていただくことが出来ました。初めてお会いした座長の山川先生には恒例の演者紹介で“この人よく知らないんだが”と正直に言われびっくりしましたが、トークの内容でそれ以来覚えていただけたようで先日も内藤記念の会でお会いした際にも質量顕微鏡法について激励していただきました。闊達さといつまでも新しいことを覚えていく意欲に感服です。

その2007年冬、ちょうど三菱化学生命科学研究所が解散するタイミングで浜松医大に呼んでいただけました。メインには豊富な臨床検体と臨床からの熱意ある大学院生と共に臨床検体の脂質解析を行い、一方で質量顕微鏡法の解像度を向上させてマウスや線虫、エビや植物などモデル動物の解析も行ないました。

今では大きめの細胞で多い脂質なら細胞内の脂質の分布なども見えるようになってきており、村上先生や青木先生など脂質生化学会の多くの近い世代の先生方と楽しく共同研究させていただいています。幹事としては若輩者ですが今後共どうぞよろしくお願いします。

会の活動状況

1 第54回日本脂質生化学会・研究集会の開催

実行委員長：九州大学農学研究院生命機能科学部門・伊東 信 教授

日時：平成24年6月7日(木)、8日(金)

場所：九州大学医学部百年講堂

演題数：特別講演2、シンポジウム3、ランチョンセミナー2、一般演題84、参加者303名

2 平成24年度日本脂質生化学会・総会の開催

平成24年6月7日(木)、第1会場(大ホール)にて開催された。

総会次第

和泉孝志会長の挨拶の後、以下の議事が進行された。

(1) 平成23年度事業ならびに決算報告

平成23年度事業報告ならびに決算報告がなされ了承された。

(2) 平成24年度事業計画ならびに予算案

平成24年度事業計画ならびに決算報告がなされ了承された。

(3) 役員・名誉会員・幹事の選出および名誉会員の推薦

現役員の紹介がなされ、25年度～26年度の再任が承認された。

会長 和泉孝志

庶務幹事 原俊太郎

会計幹事 保坂公平

会計監査 西島正弘

名誉会員として以下の5名の先生方が推薦・承認された。

古賀洋介 先生 産業医科大学名誉教授

井上圭三 先生 帝京大学副学長

玉井洋一 先生 北里大学名誉教授

中野益男 先生 帯広畜産大学名誉教授

渋谷 勲 先生 埼玉大学名誉教授

平成25～27年度幹事の選出：平成24年12月31日までの任期の幹事に加え、以下の1名の新幹事が推薦され、了承された。

瀬藤光利(浜松医大)

(4) 平成25年度(第55回)学会準備状況の報告

実行委員長：東北大学大学院薬学研究科分子細胞生化学分野・青木淳賢 教授

日時：平成25年6月6日(木)、6日(金)

場所：松島大観荘(宮城県宮城郡松島町)

(5) 平成26年度(第56回)学会実行委員長の選出

幹事会における選挙により、岩森正男教授(近畿大)が実行委員長に選出された。

(6) 脂質データベース構築委員会の活動報告

・科研費研究成果公開促進費より重点データベース「生理活性脂質データベースLipidBank」に対して科研費が交付された(2年目)。脂質データベース構築委員会の委員長は日本脂質生化学会会長が務めており、本科研費の研究代表者となっている。

・LipidBank wikiは、糖脂質データ公開へ向けて準備中である。

・日本動脈硬化学会との連携を行い、LipidBank上に脂質異常症データベースを構築することが承認された。

(7) その他

本学会で一般講演を行う筆頭演者は本学会の会員に限ることが確認された。

3 平成 24 年度日本脂質生化学会・第 1 回幹事会

日時：平成 24 年 6 月 7 日(木)

場所：九州大学医学部百年講堂 第 2 会場（中ホール 1）

議事：上記総会と同じ

4 平成 24 年度日本脂質生化学会・第 2 回幹事会

日時：平成 24 年 12 月 26 日(水) 17:30-19:00

場所：東大薬学部 10F 会議室

議事

- (1) 平成 24 年度事業報告、決算案の審議がなされ、了承された。事業案は上記総会報告、決算は巻末を参照されたい。
- (2) 平成 25 年度事業計画、予算案の審議がなされ、了承された。

1) 平成 24 年度事業報告

会員数 607 名（平成 24 年 11 月 30 日現在）

（名誉会員 28 名、正会員数 561 名、学生会員 18 名）

新入会 34 名（正会員 25 名、学生会員 9 名）

退会 47 名（会費未納による退会 8 名含む）

（年度末退会希望者 3 名 平成 24 年度会費納入済）

退会幹事 ・上田隆史 先生（元・神戸学院大）

・猪飼 篤 先生（東京工業大学）

・及川真一 先生（日本医科大学）

・二木鋭雄 先生（産業技術総合研究所）

幹事辞退 ・楠瀬正道 先生（元・福山大学） ・中川靖一 先生（北里大学）

・平山 修 先生（元・近畿大学） ・宮下和夫 先生（北海道大学）

・山田信博 先生（筑波大学）

会費納入率 78.5 %（平成 23 年度 11 月末実績 79.9 %）

賛助会員 15 社（43 口）（平成 23 年実績 15 社 45 口、平成 22 年実績 17 社 53 口）

役員	会長	和泉孝志	（平成 26 年 12 月 31 日迄）
	庶務幹事	原俊太郎	（同上）
	会計幹事	保坂公平	（同上）
	会計監査	西島正弘	（同上）

名誉会員

山川民夫（名誉会長）、赤松 穰、池澤宏郎、市原宏介、井上圭三、植田伸夫、遠藤 章、小野輝夫、鬼頭 誠、古賀洋介、斉藤国彦、渋谷 勲、鈴木邦彦、脊山洋右、武富 保、玉井洋一、内藤周幸、永井克孝、中野益男、西島正弘、野沢義則、野島庄七、箱守仙一郎、橋本 隆、林 陽、飯田静夫、牧田 章、矢野郁也、山田晃弘、山本 章、山本尚三、横山信治、和久敬蔵

幹事

（任期 平成 25 年 12 月 31 日迄）

厚味巖一、伊東 信、大木和夫、岡崎俊朗、笠間健嗣、金保安則、唐澤 健、木原章雄、櫛 泰典、坂根郁夫、里内 清、菅谷純子、杉浦隆之、杉本幸彦、鈴木 聡、瀧 孝雄、田口 良、

竹縄忠臣、寺本民夫、中島 茂、原俊太郎、保坂公平、松本幸次、村上 誠、室伏きみ子、矢富 裕、山下 純、横田一成、横山和明

(任期 平成 26 年 12 月 31 日迄)

池田郁男、石井 聡、岩渕和久、岩森正男、植田和光、上田夏生、内海英雄、榎本和生、菊田安至、小堤保則、佐々木雄彦、佐藤隆一郎、島崎弘幸、白井康仁、杉本博之、鈴木康夫、高桑雄一、多久和陽、徳村 彰、花田賢太郎、宮澤陽夫、横溝岳彦

(任期 平成 27 年 12 月 31 日迄)

青木淳賢、青山俊文、阿部敏明、荒木英爾、五十嵐靖之、和泉孝志、板倉広重、井ノ口仁一、入谷信子、梅田真郷、大島美恵子、大隅 隆、岡本光弘、奥山治美、川口昭彦、菊川清見、京ヶ島守、久下 理、久保田勝、黒木由夫、小林哲幸、齋藤政樹、須貝昭彦、鈴木明身、鈴木 隆、田中 進、谷口直之、中村和生、中山玲子、名取泰博、平林義雄、廣野治子、深見希代子、宮崎 章、柳田晃良

(任期 平成 28 年 12 月 31 日迄)

新井洋由、板部洋之、井上裕康、太田明德、大西正男、岡島史和、加納英雄、小林俊秀、清水孝雄、瀬藤光利、高橋吉孝、秦 葭哉、堀内正公、松澤佑次、三輪匡男、保田立二、山下 哲、吉岡 亨、吉本谷博、渡部紀久子

賛助会員:15 社 (計 43 口)

- (5 口) 小野薬品工業 (株)、塩野義製薬 (株)、明治製菓 (株)
- (4 口) アステラス製薬 (株)、第一三共 (株)
- (3 口) 旭化成ファーマ (株)、大日本住友製薬 (株) 大鵬薬品工業 (株)
- (2 口) 大塚製薬工場 (株)、花王 (株)、ヤクルト本社 (株)、雪印メグミルク (株)
- (1 口) エー・イー企画 (株)、キューピー (株)、中外製薬 (株)

事業

イ) 平成 25 年度 (第 55 回) 学会

実行委員長 : 東北大学大学院薬学研究科分子細胞生化学分野・青木淳賢 教授
日時 : 平成 25 年 6 月 6 日(木)、6 日(金)
場所 : 松島大観荘 (宮城県宮城郡松島町)

ロ) 脂質生化学研究 55 巻発行

演題募集 (Circular2013 の発行時に) 3 月初旬
演題申込および原稿締切 4 月上旬
プログラム編成会議 4 月中旬
入稿 4 月下旬
講演集発送 5 月下旬

ハ) 脂質生化学研究 Circular2013 の発行 2 月下旬

ニ) 会議

日本脂質生化学研究会総会 2013 年 6 月 7 日
第 1 回幹事会 2013 年 6 月 7 日
第 2 回幹事会 2013 年 12 月上旬

(3) 第 55 回日本脂質生化学会の準備状況について青木淳賢先生から説明があった。

(4) 脂質データベース構築委員会の活動報告

第 2 回幹事会において有田正規先生より以下の 2 点について報告があった。

- ・科研費研究成果公開促進費による重点データベース「生理活性脂質データベース LipidBank」の整備状況について、糖脂質・アーキア脂質・グリセロリン脂質のデータの更新が行われた。
- ・日本動脈硬化学会との連携を行い、LipidBank 上に脂質異常症データベースを構築する。

日本脂質生化学会
平成24年度決算報告及び平成25年度予算（案）

収入の部	平成24年度		平成25年度
項 目	予 算	決算	予 算
正会員会費	2,300,000	2,582,000	2,500,000
賛助会員会費	800,000	430,000	450,000
講演集売上	100,000	160,000	150,000
広告収入	650,000	286,000	400,000
利子	1,000	192	200
雑収入	10,000	28,819	20,000
小計	3,861,000	3,487,011	3,520,200
前年度よりの繰越金	1,858,592	1,858,592	1,922,942
計	5,719,592	5,345,603	5,443,142

支出の部	平成24年度		平成25年度
項目	予 算	決算	予 算
研究集会補助	900,000	900,000	900,000
会報製作費	180,000	198,083	200,000
講演集製作費	880,000	768,369	800,000
旅費	100,000	62,000	100,000
郵送・通信費	450,000	353,738	360,000
事務用品費	100,000	62,450	80,200
会合費	100,000	91,517	100,000
謝金	50,000	0	50,000
総会経費	10,000	0	10,000
事務経費	250,000	150,000	150,000
事務委託費	831,000	836,504	760,000
雑費	10,000	0	10,000
小計	3,861,000	3,422,661	3,520,200
次年度への繰越金	1,858,592	1,922,942	1,922,942
計	5,719,592	5,345,603	5,443,142

賛助会員

- (5 口) 小野薬品工業株式会社
塩野義製薬株式会社
明治製菓株式会社
- (4 口) アステラス製薬株式会社
第一三共株式会社
- (3 口) 旭化成ファーマ株式会社
大日本住友製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
- (2 口) 株式会社大塚製薬工場
花王株式会社
株式会社ヤクルト本社
雪印メグミルク株式会社
- (1 口) 株式会社エー・イー企画
キューピー株式会社
中外製薬株式会社

(以上 1 5 社 4 3 口)

日本脂質生化学会 会則

第1条 名 称

本会を日本脂質生化学会(The Japanese Conference on the Biochemistry of Lipids, JCBL)と称する。

第2条 目 的

本会は脂質の領域における化学的、生化学的研究の発展と向上を図り、あわせて研究者相互の連絡および親睦を深めることを目的とする。

第3条 事 業

本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1)研究集会の開催
- (2)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 会 員

本会の会員には次の種類がある。

- (1)正会員は、脂質の化学的、生化学的研究に従事し、本会で定めた会費を納入する者。
- (2)学生会員は、大学院または大学等に在籍し、脂質の化学的、生化学的研究に関連する分野を専攻する者で、正会員 1 名の推薦をうけて本会に登録を行い、本会で定めた会費を納入する者。
- (3)賛助会員は、本会の目的に賛同し、本会を維持することに協力し、本会で定めた会費を納入する者。
- (4)名誉会員は、幹事会の推薦により、総会の承認で決定される。名誉会員の会費は免除される。

第5条 役 員、幹 事、名誉会長

- (1)本会は、その運営のために、役員として会長1名、庶務幹事1名、会計幹事1名、会計監査1名をおき、役員会を構成する。
- (2)本会の運営上の重要事項について役員会の諮問に応ずるものとして幹事をおく。
- (3)役員および幹事は幹事会を構成し、会務の一切を処理する。幹事会は決定事項を総会に報告し、その承認を得るものとする。
- (4)名誉会長をおくことができる。名誉会長・名誉会員は幹事会に出席して意見を述べることができる。
- (5)会長、庶務幹事、会計幹事、会計監査の任期は2年とし、幹事の任期は4年とする、重任はさまたげない。

第6条 総 会

総会は、会長がこれを招集し、次の事項を審議し、決定または承認する。決定または承認は、総会出席者の半数以上の合意を必要とする。

- (1) 予算および決算に関する事項
- (2) 幹事会の提案事項
- (3) 幹事会の決定に関する承認事項
- (4) その他

第7条 経 理

本会を運営するために、次の如く経理をおこなう。

- (1) 本会の事業年度は、毎年1月1日より12月31日とし、予算および決算を会報に掲載する。
- (2) 経理は、会計監査によって監査される。
- (3) 当該年度の経理状況は、総会に報告され、その承認を得るものとする。
- (4) 本会の経費は、会費および寄附金による。

第8条 事 務 局

本会は会務に関する一切の事務をおこなうために事務局を置き、庶務幹事がこれを運営して、会員の便宜を供する。

本会の事務局は、〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル10階(株)春恒社内におく。

附則

- (1) 本会則は、総会の承認を経て変更することができる。
- (2) 本会の会費は、幹事会で決定し、総会の承認を得るものとする。

(平成14年6月14日改訂)

(平成17年6月2日改訂)

(平成 23 年5月12日改訂)

学会事務の取り扱い内容と連絡先

日本脂質生化学会の事務局は、(株)春恒社内に置き、以下の事務取り扱いを行なっております。

1. 入会・退会の受付
2. 年会費の請求および徴収
3. 所属・住所・氏名等の変更の受付
4. Circular および要旨集の発送とその未着クレーム等の受付

日本脂質生化学会事務局の連絡先

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 10F
(株)春恒社 学会事業部内
TEL : 03-5291-6231
FAX : 03-5291-2176
E-mail : JCBL@shunkosha.com

日本脂質生化学会の年会費は、正会員 5,000 円、学生会員 3,000 円です。入会ご希望の方は上記の日本脂質生化学会事務局までお問い合わせ下さい。

日本脂質生化学会 会長 和泉孝志



THE JAPANESE CONFERENCE ON THE BIOCHEMISTRY OF LIPIDS

c/o Shunkosha Co., Ltd.

Lambdax Building 10F

2-4-12 Ohkubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0072, Japan

JCBL@shunkosha.com

Tel : +81-3-5291-6231, Fax: +81-3-5291-2176

日本脂質生化学会事務局

〒169-0072

東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル 10F

(株) 春恒社 学会事業部内

JCBL@shunkosha.com

Tel : 03-5291-6231, Fax: 03-5291-2176